

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(11月2日～11月8日)

2021年11月22日  
在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- 連合国家最高評議会の開催 (11/4)
- ルカシェンコ大統領とサヴィヌィフ代表者院(下院)議員がクリミアにつき発言(11/4)
- 2000人以上の移民集団がポーランドとの国境に殺到(11/8)

## 【ルカシェンコ大統領動静】

- ベラルーシ・ロシア連合国家最高評議会の開催
    - ・11/4、対面ではなくビデオ会議にて開催。
    - ・ルカシェンコ大統領とプーチン露大統領は、最高評議会令「2021年から2023年にかけての連合国家創設条約の規定の実施にかかる基礎的な方針について」に持ち回りで署名。
    - ・同文書では、通貨システムの統合、相互の間接税の原則及び金融政策、また共通の支払いプラットフォームの構築、テロとの闘い等の28件の連合プログラムの実施の主要分野が承認されている。
    - ・連合国家軍事ドクトリンが確定された他、移民政策コンセプトも承認され同分野における両国内務省・国家保安委員会・国境警備隊・外務省の活動方針が規定された。
    - ・メゼンツェフ連合国家書記によれば、連合国家の独自のシンボルが間もなく導入される予定。
- (11/4-6 大統領府、Zerkalo、ベラパン通信)

## 【外交】

- ルカシェンコ大統領とサヴィヌィフ代表者院(下院)議員が、クリミアに関して発言(11/4)
    - ・ルカシェンコ大統領：ウクライナはベラルーシに対して空域を閉ざしているが、プーチン露大統領は、ルカシェンコ大統領を陸路でクリミアに案内し、そこで新しく作られたものを見せると約束してくれた。
    - ・サヴィヌィフ議員：クリミアは事実上、また法的にもロシアのものであることは、既に長らくベラルーシ側によって認められている。
- (11/4 大統領府、Zerkalo)

- 「ベラルーシ航空管制公社」の航空管制用データシステムからの遮断の試みに対する反応
    - ・シコルスキー運輸省航空局長は、「ベラルーシ航空管制公社(ベル・アエロ・ナヴィガツィア)」を欧州の航空管制用データシステムである「欧州 AIS データベース」から遮断する試みに関する問題について検討していると発表。
    - ・同局長は、このような行動を「合法的ではない」と述べ、「EU側からのベラルーシの航空業界に対する締め付けが続いている」と付言。
    - ・同局長によれば、制裁によるベラルーシの航空会社の財政面での損失はない。
    - ・運輸省の試算によれば、EU諸国へのフライトが不可能になったことによる損失額は毎月1,000万ドル。
- (11/3 Zerkalo)

## ● イラクでベラルーシ名誉領事館が閉鎖

- ・イラクでベラルーシ名誉領事館が閉鎖、バグダッド、エルビルの2か所の代表部が活動を休止。
  - ・エルビルの領事によれば、ベラルーシとEU諸国の国境での移民危機が主な原因。
  - ・ハマド駐エルビル・ベラルーシ名誉領事は、「イラク側は、名誉領事館は、イラク人にベラルーシへの渡航のための査証発給を最小限に抑えることになると見ている。しかし名誉領事館は査証を発給する権限はない」と述べた。
- (11/6 Zerkalo)

### ●ヴィクトル・ルカシェンコ氏、カタールを訪問

・カタール・メディア Peninsula は、11/7 にハーリド・カタール首相兼内務大臣が、ヴィクトル・ルカシェンコ氏と会談した旨報じた。

・ヴィクトル氏はルカシェンコ大統領の長男であり、国家安全保障担当の大統領補佐官を長らく務めた後、2020 年からはベラルーシ五輪委員長を務めている（同委員長ポストの前任者はルカシェンコ大統領）。

・ヴィクトル氏は、ペルシャ湾岸協力理事会（GCC）の特使として、またベラルーシ五輪委員長としてカタールを訪問。

・同紙では交渉の詳細につき明らかにされておらず、ハーリド首相とヴィクトル氏が「二国間の関係、それを強化して進展させるための方途につき協議した」旨のみ触れられている。両者はまた、双方に共通する関心事についても検討した。

・ベラルーシ五輪委、外務省は本件につき発表せず。  
(11/7 Zerkalo)

### ●アレイク外務次官と謝小用・駐ベラルーシ中国大使が会談

・国際機関、特に国連の専門機関内での両国の今後の協力につき協議。

・国際社会における連携についても協議。

(11/8 外務省)

## 【内政】

### ●非政府系団体・個人に対する捜査・閉鎖等

11/2

・法務省は、ババリコ元大統領候補の息子の事件を担当していたヴォロンコヴァ弁護士「資格が不十分」であるとして、職務を遂行して弁護士として活動することが不可能となったと発表。

11/3

・情報省はポーランド発のベラルーシ語 TV 放送「ベルサト」を過激組織と認定。

11/8

・内務省は治安機関や警察の元職員らによる内部告発組織「BYPOL」及び非政府系団体「勝利のための

動員計画」を過激組織と認定し、両者のテレグラム・チャットを閉鎖。

・11/8 現在、「過激組織」の中には、テレグラムチャンネル及びチャットにより統一された 13 のイニシアチブ及びグループがいる。

(11/2-11/8 Zerkalo、ベラパン通信)

### ●国民投票の投票日及び質問に関する情報

エルモシナ中央選挙管理委員長が憲法改正の国民投票について言及。

・ルカシェンコ大統領が投票日の 30 日前に正確な日程について発表する。

・来る国民投票の投票用紙には一つの質問と二つの回答案が記載され、選挙の仕組みは全ての選挙と同様になる予定。

(11/1 Zerkalo)

### ●第一外務次官他の解任

・10 月 29 日付の政府決定 617 号により、グリヤノフ第一外務次官、ザジラン第一法務次官、ボグダン第一保健次官が解任。

・解任は双方の合意によるもの。

(11/2 Zerkalo)

### ●COVID-19 対策のための資金の割当

・保健省に対して、新型コロナウイルス対策のために 1 億 4000 万ルーブルが割り当てられることが決定。

・同額は政府の要請する予定だった額の約 2 分の 1。同資金はワクチン、治療薬の購入に充てられる。

(11/3 Zerkalo)

## 【治安・軍事】

### ●ベラルーシから周辺国への不法移民の急増

11/2

・ポーランド外務省はチェスノフスキー駐ポーランド・ベラルーシ臨時大使をポーランド外務省に召喚。武装した人間がポーランド領に侵入後、ベラルーシ領に戻った事件が発覚したことが原因。ヴァフジク・ポーランド外務次官によれば、先週のベラルーシ当局の行

動は、「明らかに意図的にエスカレートさせる兆候を増加させている」。

11/4

・ベラルーシ外務省は、自国側から越境したとのポーランドの声明を虚偽と発表し、「ポーランドは両国間の緊張を高めようとしている」と反論。

11/8

・2000人以上の大勢の移民の集団がグロドノ州「ブルズギ」国境検問地点方面に移動。ベラルーシ国境警備隊は強化体制に移行し、同地点に国内軍の兵士達が集結。移民達は国境の有刺鉄線を番線カッターや丸太等で切断して越境を試みた。

・ベラルーシ国家国境委員会は移民の大群の殺到に関して、このような自暴自棄な行為に移民を追いやったのはポーランド当局の無関心と非人間的な対応である旨発表。

・ポーランドでは厳戒態勢が敷かれ、政府は危機管理本部を設置。

・リトアニアは、ベラルーシからポーランドへの移民の大群の殺到を受け、対ベラルーシ国境に軍隊を投入。同国外務省は非常事態の導入を提案。

・ペスコフ露報道官は、露はこの状況に対して、「ベラルーシの移民当局が、事態を法的な仕方では収拾するために必要な措置全てを講じていることを、我々は疑っていない。移民が我々の領域に流入し得ることに関する想定や予想される懸念について考慮されているということも、もちろん疑っていない」と述べた。

(11/2-8 Zerkalo、スプートニク、外務省)

### ●ベラルーシ軍が露での軍事演習に参加

・11/4、ベラルーシ軍は、集団安全保障条約機構(CSTO)集団平和維持軍の共同軍事演習「確固たる兄弟 2021」へ参加するため露に出発した。

・同軍事演習は 11 月 8-11 日にカザン戦車学校の演習場で実施予定。

(11/4 国防省、ベラパン通信)

### ●防空軍の強化

・国防省は防空軍の強化を発表。

・ゴルプ空軍・防空軍司令官は、「これはベラルーシ領空周辺の状況への対応である」と述べた。

・同司令官によれば、同軍は「国境付近での軍事及び偵察飛行の頻度が著しく増加している」と見なしており、その件数は週に 60 回に上る。

(11/6 Zerkalo)

### ●ベラルーシ軍、2022 年に露から戦闘ヘリコプター Mi-35P を受領予定

・コロリ・ベラルーシ軍参謀本部第一次長は、2022 年、ベラルーシは露製の戦闘ヘリコプター Mi-35P を受領する予定であると発表。

・如何なる条件であっても、この供給が実施されずとは発表されていない。

(11/7 Zerkalo)

### 【経済】

#### ●ウクライナへの電力輸出の再開

・ベラルーシは、ウクライナの電力ネットワークへの電力輸出を再開。

・エネルギー省によれば、これは恒常的なものではなく単発の輸出であり、長期契約は話題となっていない。シュミハリ・ウクライナ外相は、厳冬の場合はベラルーシからの電力輸入再開の可能性ありと発表。

・署名された契約によれば、電力供給は 11 月中は実施される予定であり、供給量は 5MWh/日。

(11/2、3 Zerkalo、ベラパン通信)

### ●中国国営「中信建設(CITIC Construction)」による大規模建設プロジェクトに関する動き

11/3、ゴロフチェンコ首相は、ミンスク訪問中の楊建強「中信建設(CITIC Construction)」常務副総経理と会談。

(1)「ベラルーシ生命工学公社(BNBK)」プロジェクト  
ゴロフチェンコ首相は概要以下を述べた。

・合意事項の実施と今後の活動の明確なスキーム提示を希望する。

・資金が環流し、本プロジェクト実施のために借り入れた融資を返済できる程度に採算性があることが

重要。

楊常務副総経理は概要以下を述べた。

・同会社のプロジェクトとして配合飼料とアミノ酸の生産が規定されている。

・配合飼料の生産は既に開始されており、トレオチン及びトリプトファンが生産が12月に開始予定。

(2) 窒素プラント建設の引き合い

・首相は、最新技術を用いた世界最高水準の高効率の窒素プラントを2035年までに建設したい旨述べた。

・中国側は同プロジェクトを実施できる旨確約。

(11/3 ベルタ通信)

・ベラルーシは石油及び石油ガス製品の輸出関税を引き上げ。

(11/3 ベラパン通信)

#### ●破産手続き中の国営企業の数の発表

・経済省は、ベラルーシにおいて、9月初旬時点で143の国営企業が破産手続中であると発表。これらの中には、救済が試みられている機関、また整理中の機関もある。

(11/7 Zerkalo)

#### 【抗議勢力の動き】

##### ●チハノフスカヤ民主勢力代表の活動

(1) ヴィストルチル・チェコ上院議長と会談(11/4)

(2) チハノフスカヤ民主勢力代表事務所はブレントステッター・オーストリア議会対ベラルーシ関係グループ長及び英外務省代表と、ベラルーシにおける危機克服につき協議。また国連及び欧州安全保障協力機構(OSCE)と対ベラルーシ支援につき協議。

(11/7 チハノフスカヤ氏公式サイト)

##### ●国民投票実施に関する立場と行動計画の調整

チハノフスカヤ氏事務所、「権力委譲のための調整評議会」、「国家危機対策局」、「勝利」、「労働運動」、「正直な人々」が参加する電話会談を通じて調整。

(11/7 チハノフスカヤ氏公式サイト)

##### ●ストライキと人々の動員のための戦略の協議

チハノフスカヤ民主勢力代表、ラトウシコ「国家危機対策局」代表(元文化大臣)、元治安機関・警察職員による内部告発組織 ByPol、複数の Telegram チャンネルの代表の間で協議。

(11/7 チハノフスカヤ氏公式サイト)

#### 【その他】

##### ●インターポールがチハノフスカヤ氏への国際手配への関与を拒否

メドヴェージェフ・ベラルーシ国際刑事警察機構(ICPO、インターポール)国家局長は、ICPOがチハノフスカヤ氏を国際指名手配するために同局長のチャンネルを利用することを拒否したと発表。

(11/2 Zerkalo)

##### ●2020年のベラルーシ人のEU居住許可取得件数

・2020年、6万3500人のベラルーシ人がEU諸国で居住許可を取得した。

・ベラルーシ人に最も多くの居住許可を交付したのはポーランドであり、1年間で、同国はベラルーシ人に対して5万枚強の「滞在カード」を交付。その次は、リトアニア、チェコ、ドイツ、ラトビアである。

(11/2 Zerkalo)

##### ●OSCEによる国内の人権状況の報告の要請

・11/4、35の欧州安全保障協力機構(OSCE)加盟国の常任代表団のトップ達は、ダブキユナス OSCE ベラルーシ常任代表に対して、ベラルーシ政府がウィーン・メカニズムの枠内で国内の人権状況について報告するよう要請する書簡を送付。

・ウィーン・メカニズムの規定に従い、10日以内に書面で回答を得ることが期待されている。

(11/5 Zerkalo)

##### ●11/7時点で、政治的理由でベラルーシの刑務所に834人が収容

(11/7 Zerkalo)

(了)